

## は し が き

博士の学位を授与したので、学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第8条の規定に基づき、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をここに公表する。

氏名	趙 無忌
生年月日	1988年5月11日
本籍	中華人民共和国
学位の種類	博士（国際学）
学位記番号	博第16号
学位記授与年月日	平成28年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項
研究科・専攻の名称	宇都宮大学大学院国際学研究科（博士後期課程）国際学研究専攻
学位論文題目	
論文審査委員	
	主査 教授 佐々木 一 隆
	教授 中村 真
	教授 松村 史紀
	教授 倪 永茂
	教授 松金 公正
	教授 高尾 享幸

## 博士論文の内容の要旨

専攻名 国際学研究専攻

氏名 趙 無忌

### 1. 論文題目

認知言語学から見た日中空間辞の意味と機能拡張に関する比較研究

### 2. 論文の概要

本論文は、認知言語学の視点から、日本語と中国語の空間辞の意味と機能がどのよう

に拡張するかについて比較したもので、序章及び終章を含めて、全部で 6 章からなる。以下に、各章の内容とその成果について述べる。

序章では、本論文における研究の背景、研究の対象、研究の目的、認知言語学の重要な用語（ランドマークとトラジェクター、イメージ・スキーマ、メタファーとメトニミー）及び本論文の構成について説明した。

第 1 章では、日本語の「上(うえ)」と中国語の「上(shang)」という 2 つの空間辞の意味と機能を比較した。この章は、6 つの部分から構成されている。まず第 1 節では問題の提起と本章の目的を述べた。第 2 節では、日本語の「上(うえ)」と中国語の「上(shang)」に関する先行研究を整理して、空間辞の語彙的な意味と機能的な意味との連続性を紹介した。第 3 節では、日本語の「上(うえ)」の各種類の空間的な意味を分析し、物と物との位置関係から事柄と事柄との抽象的な関係へというメタファーによる拡張のプロセスを取り上げ、「上(うえ)」の機能を考察した。第 4 節では、中国語の「上(shang)」の空間的な意味を分析し、接触ありの高所から存在の場所へというメトニミーによる拡張のプロセスを取り上げ、「上(shang)」の「場所化」という機能を検討した。第 5 節では、「上(うえ)」と「上(shang)」との用法の相違点と共通点を明らかにした。最後に第 6 節で本章のまとめを行った。

第 2 章では、日本語の「下(した)」と中国語の「下(xia)」という 2 つの空間辞の意味と機能を比較した。第 2 章の内容は 5 つの部分からなる。まず第 1 節では、研究背景として先行研究を概観し、「下(した)」と「下(xia)」との比較研究が現時点では極めて稀だという研究の状況を浮き彫りにしたうえで、本章の目的を述べた。第 2 節では、「下(した)」と「下(xia)」のそれぞれの空間的な意味を分析し、両者の共通点と相違点を説明した。第 3 節では、拡張のプロセスを通して、「下(した)」と「下(xia)」との共通の非空間的な意味をまとめた。第 4 節では、スキーマ変換という認知の現象を取り上げ、日本語における〈裏/表〉と〈上/下〉との緊密な関連性を論じ、「下(した)」の非空間的な機能の特徴を分析した。また、「メトニミーからのメタファー」という拡張の現象を取り上げ、「下(した)」と対応しない場合の「下(xia)」の用法を考察した。最後に第 5 節で本章のまとめを行った。

第 3 章では、日本語の「前(まえ)」・「先(さき)」と中国語の「前(qian)」という 3 つの空間辞の意味と機能を比較した。この章は大別して空間的な意味に対する分析と、拡張の視点から時間的な意味を考察するという 2 つの部分から構成されている。まず第 1 節では、本章全体に関わる問題提起と本章の目的を述べた。前半の部分については、第 2 節で空間的な参照枠、2 種類の方向付け方略（対峙的方略と同方向的方略）という概念を紹介して、「前(まえ)」・「先(さき)」、「前(qian)」の空間的な意味を考察したうえで、第 3 節で「前(まえ)」と「前(qian)」、「先(さき)」と「前(qian)」との空間的な意味の相違点を明らかにした。後半の部分については、第 4 節で認知言語学の時間メタファー理論の変遷を概観し、空間から時間へという意味拡張のプロセスを踏まえて、主体性とい

う概念も加味しながら、本論文の新たな分類方法を説明した。それを受けて、第 5 節で「前(まえ)」と「前(qian)」、「先(さき)」と「前(qian)」との時間的な意味を比較した。最後に第 6 節で本章のまとめを行った。

第 4 章では、日本語の「後(あと)」と中国語の「後(hou)」を分析対象にして、両者を意味と機能の拡張の観点から比較した。この章は主に 3 つの部分からなる。第 1 節では研究の背景を説明し、「後(あと)」のみを対象とした、あるいは、「後(hou)」のみを対象とした先行研究はあるが、比較の視点により「後(あと)」と「後(hou)」との共通点と相違点を分析する研究は、現時点ではまだないという現状を述べたうえで、本章の目的を述べた。第 2 節では、「跡(あと)」という日本語の表現に対する考察を含め、「後(あと)」と「後(hou)」との空間的な意味を記述したうえで、両者の違いを分析した。第 3 節では、第 3 章で提唱された時間メタファーに対する本論文の新たな分類に基づき、「後(あと)」と「後(hou)」の時間的な意味の相違点を明らかにした。最後に第 4 節で本章のまとめを行った。

終章では、この論文で論じられた日中両言語の空間辞の意味と機能拡張の異同について明らかになったことを章ごとにまとめた。また、今後の課題も展望した。

# 博士論文審査結果の要旨

専攻名 国際学研究専攻

氏名 趙 無忌

## 1. 審査概要

### 1) 予備論文審査

学位請求のための予備論文「認知言語学から見た日中空間辞の意味と機能拡張に関する比較研究」は2015年9月11日に提出された。この論文に対して、国際学研究科教員の審査委員5名および学外審査委員1名からなる予備論文審査委員会が設置され、10月20日に同委員会が開催された。

まず、博士論文としての水準を学会誌（日本学術会議の協力学術研究団体）への掲載や分量により確認した。学会誌に掲載された論文は2編あり、「日本語の『前(まえ)』と中国語の『前(qian)』の空間的意味に関する研究 -対峙的方略と同方向的方略の視点から-」（『比較文化研究』No. 113、2014年）と「イメージ・スキーマの事例化：『サキ』の多義構造を中心に」（『日本認知言語学会論文集』第15巻、2015年）である。この確認後、各委員から意見を聞き、面接を実施して、教育的な観点から以下のような指摘をした。日中空間表現の意味と機能について、理論に照らして比較・記述し、「空間」から「時間」への拡張について新たな提案をしている点に独創性が見られる。しかし、研究対象の明確化、コーパスと辞書の利用、例文の扱い方、基本原理と関係概念の明確化、より正確な記述と説明力、文字や記号の表記、序章および終章の内容と述べ方について改善すべきとの指摘があった。以上を総合した結果、学位論文の審査請求に値するという合意が得られた。

### 2) 学位論文審査

学位請求論文は2015年12月14日に提出された。これを受けて、予備審査委員会と同じ構成員6名からなる学位審査委員会を2016年1月21日に開催し、第1回委員会、口述による最終試験、第2回委員会を実施した。

#### (1) 第1回学位審査委員会

予備論文審査において指摘された以下の改善事項を確認した結果、いずれも改善が認められ、全員一致で最終試験を行うことにした。

- ①序章および終章の内容を充実させ、述べ方についても改善をはかる。
- ②研究対象と基本原理などを明確化し、説明力を高めて、より正確な記述をする。
- ③コーパスと引用例文および表記法を吟味し、本文での説明を分かりやすくする。

## (2) 最終試験

最終試験は第1回学位審査委員会に引き続いて行われた。最初に著者である趙無忌氏に対して本論文がどのように改善されたかを中心に説明を求め、そのあとで質疑応答を行った。具体的には、辞書例文の扱い方、図や文献からの引用の正確さ、分類や新しい術語導入の意義、第3章と第4章の順序、各章を総合した終章における見解、説明の一貫性、語義を過不足なく記述することの重要性、他の分析方法との比較、基本から派生への拡張などについての質疑とその応答がなされた。軽微な修正を必要とする箇所が若干見られたが、大筋において問題がないことを確認した。

## (3) 第2回学位審査委員会

論文審査および最終試験での趙氏との質疑応答の結果から、本論文について最終的に以下の評価がなされ、博士後期課程の論文評価基準に照らして、学位論文[博士(国際学)]の要件を満たしているとの結論に達した。

- ・予備審査において改善が求められた事項の大部分が改善されていると確認できる。
- ・序章については、主な研究対象として日本語と中国語の「上」「下」「前」「後」という空間辞を選んだ理由、トラジェクターとランドマーク、イメージ・スキーマ等の基本概念の図解、引用例文出典の見方に関する凡例が示された点で充実し、述べ方も分かりやすくなった。また、言語学史における認知言語学の位置づけとその意義や特徴も新たに記載されている。
- ・終章についても、第1章から第4章までの研究成果を図表で分かりやすくまとめ、「上」「下」「前」「後」等の意味と機能の拡張の過程を明示する形で充実が図られている。
- ・言語事実に関する記述の正確さと説明力についても改善が見られる。
- ・関係する先行研究をかなり網羅的に読んでおり、日本語・英語・中国語で書かれた文献もバランスよく読んでいる。
- ・本論文は、辞書・コーパス・他の公刊物からの引用例文を用いて、認知言語学の観点から、日中語における特定の空間辞について丁寧に比較・分析した点で独創性があり、研究史上大きな意義がある。例えば、「上(うえ)」と「上(shang)」の空間的な意味・機能が、語源の差ならびにメタファーとメトニミーに基づいて、どのように非空間的な意味・機能へと拡張しているかを詳述した点で高く評価できることが挙げられる。
- ・今後の課題を含め、様々な面でさらなる研究の発展が期待できる。

## 2. 審査結果

以上により、本審査委員会は、趙無忌氏の提出した学位論文が博士（国際学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。